

大船渡市津波伝承館を訪問しました(2013/4/20)

場所：大船渡市大船渡津波伝承館 <http://ofunato-tsunami-denshokan.jimdo.com/>

平成 25 年 4 月 20 日に、災害リスク研究分野津波工学研究分野（今村文彦教授，保田真理助手），寄附研究部門（サッパシー・アナワット准教授）が，三陸沿岸部での被災後の地域での復興に向けた活動調査の一環で，津波防災啓発などの活動を視察いたしました。この代表的施設である大船渡市津波伝承館を紹介します。

東日本大震災を経験し，多くの教訓を語り継ごうと，平成 25 年 3 月 11 日に津波伝承館が開館（仮オープン）されました。齊藤賢治（さいとう製菓専務，65歳）さんら市民有志が昨年 8 月に立ち上げた一般社団法人「大船渡津波博物館」が計画したものです。写真展示のほか，齊藤さんが避難時に撮影した記録映像の上映、震災体験者の語りなど，来館者が直接，津波の脅威を感じられるように工夫されています。この伝承館には 2 つのプログラムがあります。始めは，語り部さんによる津波映像の解説と被災体験談になります。齊藤さんが，地震時から津波来襲時（地震発生時の様子・すぐに高台避難した状況・途中で車渋滞状況・避難場所で見た来襲状況），さらに，その後の避難体験，工場再開の様子等，多彩な内容になっています。

歴史的には，三陸沿岸では，明治，昭和，チリの 3 つの地震津波により甚大な被害があり，ここでの経験を今後の防災に活かそうという活動が地域で行われて来ました。齊藤さんの父が大船渡市に移住したのが昭和 8 年であり，この 3 月 3 日に，昭和三陸地震津波が発生しました。これ以降，父は家族や周辺に「津波の怖さ，恐ろしさ」を常に語っていたそうです。齊藤さん自身，12 歳の時にチリ津波を体験しています。大船渡市は，この際にも大きな被害を出しています。

地震直後に，齊藤さんの「地震だ、津波が来る、逃げなさい」のかけ声とともに，さいとう製菓の従業員のみなさんが日本社から高台までにげた避難路を通して避難体験をします。さらに，震災遺構を語り部さんと歩く機会もあります。津波浸水域には，津波により被災した建物などが残っているところがあります。このツアーでは，主に津波により壊滅的な被害を受けた旧さいとう製菓本社や津波が来た時のままでとまっている時計台などを，語り部さんと歩くことができます（所要時間 30 分程度）。



大震災前と後のさいとう製菓専務の様子



齊藤賢治さん（右から二番目）

文責：今村文彦，保田真理（災害リスク研究部門），
 サッパシー・アナワット（寄附研究部門）